

財政状況等一覧表（平成20年度決算）

(単位:百万円)

団体名 野迫川村

標準税収入額等 A	普通交付税額 B	臨時財政対策 債発行可能額C	標準財政規模 A+B+C
116,608	726,893	49,823	893,324

1. 一般会計等の財政状況

(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
一般会計	1,627,526	1,573,331	54,195	47,598	0	2,923,858	
バス会計	2,595	1,089	1,506	1,506	0	0	
一般会計等	1,630,121	1,574,420	55,701	49,104		2,923,858	

※「一般会計等」の数値は、各会計間の繰入・繰出などを控除(純計)したものであることから、各会計間の合計額と一致しない項目がある。

2. 公営企業会計等の財政状況

(単位:百万円)

会計名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額/不足額 (実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等繰入見込額	備考
国保(事業)	98,550	79,710	18,840	0	9,843	0	0	
国保(直診)	68,239	62,963	5,276	0	20,000	4,026	4,026	
老人保健	19,343	6,350	12,993	0	3,078	0	0	
介護保険	82,974	75,014	7,960	0	14,901	0	0	
後期高齢者医療事業	12,378	9,930	2,448	0	14,006	0	0	
簡易水道	38,234	36,983	1,251	0	4,622	299,649	299,649	
温泉	2,459	2,459	0	0	1,459	12,250	12,250	
公営企業会計等 計						315,925	315,925	

- (注) 1. 法適用企業とは、地方公営企業法の全部又は一部を適用する公営企業である。
 2. 法適用企業会計以外の特別会計については「総収益」「総費用」「純損益」の欄に、それぞれ「歳入」「歳出」「形式収支」を表示している。
 3. 「資金剰余額/不足額(実質収支)」は、地方公共団体財政健全化法に基づくものであり、資金不足額がある場合には負数(Δ~)で表示している。
 4. 「左のうち一般会計等繰入見込額」は、企業債(地方債)現在高のうち将来負担比率に算入される部分の金額である。

3. 関係する一部事務組合等の財政状況

(単位:百万円)

一部事務組合等名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額/不足額 (実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等負担見込額	備考
市町村総合事務組合	4,934,822	4,913,892	20,930	20,930	1,512,000	0	0	
広域水質検査	123,663	113,220	10,443	10,443	0	0	0	
南和広域連合	120,419	75,994	44,425	44,425	0	0	0	
一部事務組合等 計								

4. 地方公社・第三セクター等の経営状況及び地方公共団体の財政的支援の状況

(単位:百万円)

地方公社・第三セクター等名	経常損益	純資産又は 正味財産	当該団体からの 出資金	当該団体からの 補助金	当該団体からの 貸付金	当該団体からの 債務保証に係る 債務残高	当該団体からの 損失補償に係る 債務残高	一般会計等 負担見込額	備考
野迫川村観光開発公社	Δ 5,096	Δ 5,446	5,000	13,129	0	0	0	13,129	
地方公社・第三セクター等 計			5,000	13,129	0	0	0	13,129	

(注) 損益計算書を作成していない社団・財団法人は「経常損益」の欄には当期正味財産増減額を表示している。

5. 充当可能基金の状況

(単位:百万円)

充当可能基金名	平成19年度 決算 A	平成20年度 決算 B	差引 B-A
財政調整基金	136,120	163,313	27,193
減債基金	24,033	74,067	50,034
その他充当可能基金	111,420	114,722	3,302
充当可能基金 計	271,573	352,102	80,529

(注) 「充当可能基金」とは、基金のうち地方債の償還等に充当可能な現金、預金、国債、地方債等の合計額をいい、貸付金及び不動産等を含まない。

6. 財政指標の状況

財政指標名	平成19年度 決算 A	平成20年度 決算 B	差引 B-A	早期健全化 基準	財政再生 基準	資金不足比率 (公営企業会計名)	平成19年度 決算 A	平成20年度 決算 B	差引 B-A
実質赤字比率	5.41	5.49	0.08	15.0	Δ 20.00	簡易水道事業	-	-	-
連結実質赤字比率	8.34	10.95	2.61	20.0	Δ 40.00	温泉事業	-	-	-
実質公債費比率	23.7	21.0	Δ 2.7	25.0	35.0				
将来負担比率	156.2	110.7	Δ 45.5	350.0					
財政力指数	0.13	0.11	Δ 0.02						
経常収支比率	96.9	91.3	Δ 5.6						

- (注) 1. 「実質赤字比率」「連結実質赤字比率」「資金不足比率」は負数(Δ~)で表示している。
 2. 「実質赤字比率」「連結実質赤字比率」は、収支が黒字の場合には便宜的に当該黒字の比率を正数で表示している。
 3. 早期健全化基準に相当する「資金不足比率」の「経営健全化基準」は、公営競技を除き、一律 Δ20%である(公営競技は0%)。
 4. 「早期健全化基準」及び「財政再生基準」は平成20年度決算における基準である。